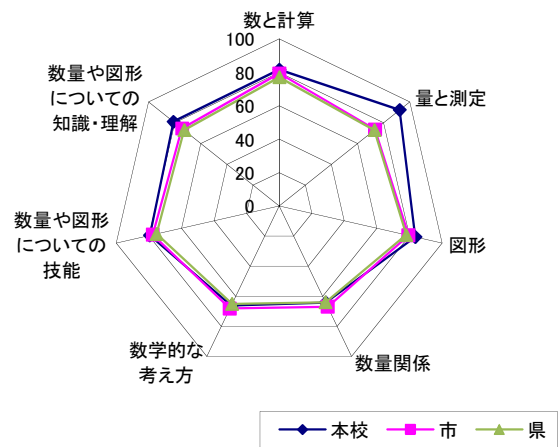


宇都宮市立海道小学校第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	81.7	79.3	77.1
	量と測定	92.2	73.4	72.9
	図形	83.6	79.4	78.0
	数量関係	64.2	67.0	64.0
観点	数学的な考え方	66.3	68.2	65.1
	数量や図形についての技能	79.5	77.7	75.4
	数量や図形についての知識・理解	81.0	74.5	72.8



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域の平均正答率は81.7%で、県平均より4.6ポイント高い。 ⇒○億と兆と概数の表し方以外の設問が全て県平均より上回った。特に、小数の相対的な大きさの理解の設問では96.9%の正答率で県平均より13ポイント上回った。家庭学習の成果が見られる。	・千の位までの概数に表す設問につまづきが見られた。プリントを用意し、家庭学習で概数の問題を継続して行わせ、定着を図る。 ・今後も、朝の学習や家庭学習でドリルや学習プリントを活用して反復練習を行っていく。
量と測定	○領域の平均正答率は92.2%で、県平均より19.3ポイント高い。 ⇒○特に、 m^3 と cm^3 の単位の関係についての設問の正答率が100%と62.9ポイント上回った。同様の設問を繰り返して行った成果が見られる。 ⇒●分配の法則に関する設問の正答率が34.4%で県平均を5.4ポイント下回り、課題が見られた。	・授業の中で計算の法則を取り上げて指導する。少人数での指導やかがやきルームでの指導と連携を取り合い、個に応じた指導を継続して行っていく。また、「なぜ・・・になるのか」「どうして・・・になるのか」といった、解き方を説明させる場面を作り、確実な理解に結び付ける。
図形	○領域の平均正答率は83.6%で、県平均より5.6ポイント高い。 ⇒○特に、ひし形の作図の設問では、正答率が75%と県平均より16.2ポイント上回った。デジタル教科書等を活用した成果が見られる。 ⇒●長方形の辺どうしの関係について設問の正答率が71.9%と県平均よりも5.1ポイント下回った。	・プリントやドリルを活用し、四角形の垂直と平行についての問題を行い、垂直と平行の意味の理解やその関係がどのようなものかを理解させる。 ・ICTや少人数指導を利用し、視覚的に垂直と平行の関係を捉えさせるとともに、個々の理解度を高める。
数量関係	○領域の平均正答率は64.2%で、県平均より0.2ポイント高い。 ⇒○表にあてはまる数を入れる設問は全員が正解した。繰り返し指導してきた成果が見られる。	・日常生活の中でグラフをよみ取る力や資料の特徴をよみ取る力を指導者が意識して取り上げることによりそれらの定着化を図る。 ・グラフをよみ、説明する活動を他の教科の授業や日常生活の中で行うことで理解を深める。 ・プリントやドリルで反復練習させ、数量関係の問題への対応力を育てる。